



20周年記念の計画

7月1日で満20歳の足寄動物化石博物館 記念講演会

8月5日（日）午後
銀河ホール21【予定】
小林快次（よしつぐ）さん

講師に、北海道大学総合博物館 小林快次さん（北大准教授）をお迎えします。
ムカワリュウの発掘で大活躍の小林さんから世界の恐竜・北海道の恐竜のお話を
聞きます・・・足寄・東北海道向け的话题を検討中。

新展示＝四つ足のクジラの骨格

最初のクジラ「パキケトウス」と水中生活に進化した「アンブロケトウス」の全身骨格を展示します。5月の連休前後を目標にしています。



国立科学博物館に展示されたアンブロケトウス

骨格の変革＝泳ぐ束柱類

2015年から取り組んできた「束柱類の游泳化計画」。20周年の今年、足寄で
みつかったアショロアとベハモトプスが泳ぎます。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp (博物館だよりpdf版あり)

No. 145

2018年 3月 7日発行

(年4回発行)

足寄動物化石博物館 20周年

足寄動物化石博物館は、町内茂螺湾（もらわん）から発見・発掘された海の哺乳類（足寄動物群と名づけた）を保管・研究・公開することを目的に1998年に開設されました。2018年7月1日で満20年になります。

足寄動物群には、最初に発見された束柱類（アショロアとベヘモトプス）とクジラ類（ヤブキクジラやアショロカズハヒゲクジラなど）が含まれています。開館以降の研究や展示はおおむね下の図のように発展してきました。

束柱類

1998年 開館

束柱類8体を展示したが、そのうち6体はワニのような、陸に立つ姿勢の犬塚復元だった。

小：アショロア
大：ベヘモトプス



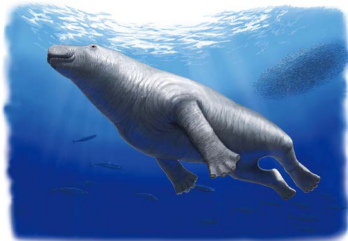
2001年

アショロアとベヘモトプスの学名が正式に。

2014年

化学分析や骨の微細構造の研究から「泳ぐ束柱類」に転換し、展示室の説明・図を海を泳ぐように書き替えた。

デスモスチルスが
海中を泳ぐ様子
(生態復元図)



2018年 骨格も泳ぐ

背骨の特徴から、束柱類は陸を歩けない、と判断し、足寄産の動物の骨格を組み立てなおす。

「立体標本」を
博物館でご覧ください

鯨類

歯のあるヒゲクジラ4標本は1994年に学名がついた

1998年 開館

ヒゲクジラ類の復元骨格を1体だけ組み立てた。



開館時から展示しているカズハヒゲクジラ

2001年～

ヒゲクジラの特徴である「クジラヒゲ」の起源について、足寄の化石の研究をベースに発表した。



歯のあるヒゲクジラAMP14の研究用復元頭骨

2018年

CT撮影など、新しいデータを得て、研究を続けている。

研究中の資料なので、展示は
もう少しお待ちください

20周年記念の制作・購入標本は、春から夏にかけて順次公開します。

- ①ロビーの「新着標本展示」に据え、説明会を開催します。
- ②展示室の説明を、新標本にあわせて描き直し、常設展示を変更します。
- ③20周年記念講演会の際、そのほか節になる日に、改めて説明会を開きます。
- ④市民の皆さん、自治会など町内の団体のご要望により、随時説明をおこないます。

標本貸出 美幌博物館 三笠市立博物館

●開館30周年を迎える美幌博物館（写真）から、標本借り出しの申し込み

美幌町内からは、足寄の動物化石より少し後の時代のクジラ（小型ハクジラ）の背骨の化石が見つかっており標本処理のお手伝いをしたことがあります。この化石の意義を町民に伝えようと「30周特別展」で取り上げることになったそうです。

足寄からは、歯のあるヒゲクジラの代表格アショロカズハヒゲクジラの全身骨格などを貸し出すことになりました。美幌のクジラと比べるとおもしろいですね。



●三笠市立博物館からも

アンモナイトの化石で有名な三笠市立博物館からは、やはり企画展で「いろんな哺乳類の化石」を展示したいと学芸員が調査にこられました。足寄博物館には、茂螺湾で見つかった化石の比較研究のために古いゾウの歯やウマの顎（あご）の化石があり、貸し出すことになりました。

「津別標本」

津別町から2010年にみつかった化石が少しずつ姿を見せてきました。写真でも細かい骨が散らばっているようですがわかります。スケールの下に見えるのが肩甲骨。長さ8cmほど。小型のアザラシくらいの体長が考えられます。

産出した地層は「津別層」。足寄動物群をふくむ茂螺湾層より少し新しい、2000万年くらい前の海成層です。動物はまだ特定されていません。

網走川流域の津別町。隣町的美幌博物館の特展で地域の皆さんにご覧いただくことにしました。



日本古生物学会 発表

日本古生物学会が2月2日から4日まで、愛媛大学で開催され、新村龍也学芸員が参加しました。上浦幌で2016年に発見されたアシカ類化石の研究発表をしました。

アシカ類は、トドやオットセイ、ニホンアシカ（明治時代までは確実に生息した）が日本近海に生息していますが、実は化石はあまり多くないので、とても貴重な標本です。

この化石には、頭に大きなトサカのような骨があることや犬歯が大きいことから、オスであることが分かりました。そして、見つかっている頭部の大きさから、体長は、トドより小さく、ニホンアシカよりも大きかったと推定できます。

今後、足寄動物化石博物館でさらなる研究をすすめ、頭部骨格の復元、さらに、生体復元まですすめ、どの様な顔つきだったのかつきとめたいと考えています。



奥のカリフォルニアアシカよりも大きな、アシカ類化石（上浦幌産）

探鳥会のおしらせ

わたしたちの生活にもっとも身近な野生動物である鳥たちを足寄の野山で探りませんか？

予約不要・参加費無料です。
不明な点は博物館までお問い合わせください。



- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 4月1日(日) 午前8時
足寄動物化石博物館の駐車場集合
(集合後、自動車で移動します。
自家用車でおいでください) |
| 第2回 | 5月13日(日) 午前8時
里見が丘公園駐車場の芝桜園入り口集合
(郊南交差点から西へ、国道241号沿い) |

各回とも2時間くらいです。十分な防寒で、第1回は長靴を履いてきて下さい。双眼鏡、カメラ、筆記用具があるとよりいいです。

2018年度の化石体験情報

◇「ミニ発掘」のあたらしいこと(旧年度から替わるもの)

初めて登場する種類：巻き貝(化石)、セテナイト・ルビータンブル・アメトリン(クリスタル)、
ピンクオパール・ブルーレースアゲート(ミニミニ)

復活する人気の種類：貨幣石(化石)、ルビーフクサイト・八面体ホタル石・カーネリアン・ヘマタイト・
ムーンストーン(クリスタル)

◇夏季特別化石体験 海の日～8月末の間で、一定期間・個数限定で提供します。

ミニ発掘プレミアム：昨年好評の「ダイヤモンド」にくわえて、「エメラルド・ルビー」セットが登場します、「デスモスチルス臼歯片」は4年目です。

「石みがき」体験：1時間かけて石をみがく体験。あらたに、「メノウ・ジオード」・「セプタリアン・ノジュール」を準備中です。
定番の「十勝石」のほかに、「化石入り石灰岩」・
「結晶片岩」を継続します。



エメラルドとルビー
(ケースの幅：3cm)

足寄動物化石博物館の利用について

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館できる時刻)
- 休館 毎週火曜日(祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日)
年末(12月30日から)・年始(1月6日まで)
※「海の日」から8月末までは、全日開館します。
- 料金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。
※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



20歳になった博物館。ようやく、一人前。先輩達に「追いつき・追い越せ」ができるか。北海道内の化石事業は発展中です。東北海道の拠点として期待に応えなきゃ。・・・そだね～。